

グッドデザイン賞を目指す、 富山のものづくり企業のこれから

グッドデザイン賞「Gマーク制度」は、1957年に通商産業省（現経済産業省）によって「よいデザインを通じて、生活の質向上と産業の高度化を図ること」を目的に創設された。1998年からは（財）日本産業デザイン振興会（現（公財）日本デザイン振興会）が主催している。富山県においても、多くのものづくり企業がグッドデザイン賞受賞を目指して研鑽を積んでいる。2014年度には、県内から12件の受賞があったものの、デザインが多様化する昨今において、グッドデザイン賞「Gマーク制度」そのものも変化していると言う。富山県総合デザインセンター 桐山登士樹デザインディレクターに聞いた。

「モノからコトへ」変容する時代

グッドデザイン賞「Gマーク制度」は、かつては確かに日本のデザイン界において目標とする重要な位置づけにあった。その歴史を振り返ると、第一期は「外国製品の模倣という段階から脱するための賞（制度）」、第二期は1980年代ぐらいで「モノデザイン」だった。そして、現在にあたる「多様化の時代」。対象もかつてはモノだったのが、景観やソフトウェア的なものにまで広がっていて、**グッドデザイン賞**そのものが「**モノからコトへの賞**」に変わろうとしている。ただ、現時点での第三期が固まるには、少し時間がかかるだろう。というのも、富山のものづくり企業の多くは、やはり「自分たちのものづくり」の評価制度として、Gマーク制度をとらえている。ところが、制度の内容そのものが変容しているため、その評価軸に対してギャップが生じている。これだけデザインが多様化しているなかで、審査する側も応募する側もデザインのありようが明確になっていないように感じている。

県内企業の中にもGマークにこだわらず、iFデザインアワードやレッド・ドット・デザイン賞などをという声が聞かれ始めている。富山県総合デザインセンターとしてはGマークがどのように変化していくのか、客観的に見ていく必要があると思う。

国際市場のなかで生きる「賞」とは

Gマーク制度には、中国・香港、台湾、シンガポールといった近隣諸国の審査員が加わったおかげで、そのエリアの市場では感触がいい。ただ、個人的にはGマーク制度はもっと国際的な賞になってほしいと思っている。そのためには先進国のデザイナーやバイヤー、メディアなどの多様な目利きたちが審査員として参画することが望ましい。そういうなかで富山のものづくり企業が評価されれば、これは大変に強い力となる。そういう賞であれば、受賞することで国際市場のなかでも際立つことができる。

「いいデザイン」というものは、もう当たり前前の時代。そこに、さらに「強さ」がほしい。その点で評価されなければ、世界のマーケットで生きてはいけぬ。受賞するだけの賞では、

仕方がないのではないかと。歴史あるGマーク制度だが、そういう意味では厳しい目で見ていきたい。もちろん、受賞できるのであれば、Gマークに限らずいろいろな賞を狙っていくといいと思う。富山のものづくりは志も高いし、製品は確か、デザインも洗練されている。今は、**グローバルマーケットに対して、自分たちの強さをきちんとアピール**しなくてはいけない時代。富山の県民性もあるのかもしれないが、しっかり明確に伝えるということに、もっと慣れたほうがいい。

富山のものづくり企業が、目指す方向とは

店頭に並んでいる商品を見ても、性能の差もデザインの差もない。いわゆるモノの価値の差異化が無くなってきている。だからこそその差異が明確になるようなデザインを目指して、切磋琢磨しなくてはならない。**他社を押しよける「オンリーワン」**、それがブランディングに結びつくと思う。その状況とGマーク制度の内容がうまく合致すればいいのだが、必ずしもそうではない。この時代の難しさとも言えるだろうが、やはり「モノ」評価の時代は20世紀で終わっている。「モノとコト」がセットにならなければいけない。

国際的な展示会に出展して評価され、しっかりとした経営哲学のある強い企業は、富山県にもある。そういう企業をいい教材にしながら、自社なりの強さを磨く。そんな強いものづくり企業が富山に10社ぐらいあれば、富山県は世界のマーケットに対しても明確な存在となる。

富山県総合デザインセンタープロデュースで、メゾン・エ・オブジェの一番いいブースに、富山県企業10社が並ぶという夢がある。**海外マーケットのなかでの富山ブランディング**を目指して、デザインセンターとして支援していきたいと考えている。

グッドデザイン賞 2014年度 富山県内受賞企業等（順不同）

1. 三協立山(株) 高断熱樹脂窓「スマージュ」「トリプルスマージュ」
2. 三協立山(株) スライディングゲート「ライアーレ」
3. 三協立山(株)・富山大学 歩行補助車
4. テイカ製薬(株) howatt 技術
5. (株)タカタレムノス ウォールクロック「CARVED II」
6. (株)ナガエ フルーツボウル「汀ノ岡」
7. (有)四津川製作所 くい飲み「喜泉」
8. (株)KANAYA コートスタンド「MK+01」
9. (株)リッチェル ベビーバス「ふかふかベビーバスR」
10. (株)リッチェル ベット用キャリー「キャンピングキャリー折りたたみ」
11. 北陸コカ・コーポリング(株)・(株)金沢計画研究所 酒蔵を改修した企業の研修施設「若鶴大正蔵」
12. 富山大学・松原建設(株) 木津の庄 コミュニティセンター+公園